

## 中本信忠氏講演

おいしい水を広める市民の会勉強会

# 上田市の水道の広域化の問題点

2026年3月24日 中村自治会館

### 染屋浄水場は自然の仕組みの応用

染屋浄水場の操作は手動です。だから停電対策はいらないのです。電気もいらないのですね。それはどういうことかということ、業者儲からないのです。そうするとね、今の工学技術は、業者が儲かるシステムしか研究しないのです。だけど染屋浄水場は自然の仕組みの応用なのです。それが上田市で100年前に取り入れた方式です。実はイギリス方式を真似て横浜に明治20年にできた仕組みです。それを真似て作ったのです。関東大震災前です。だから上田は少し位の大きな地震があっても大丈夫です。しかもですね、昔（創設当時）の池の壁は斜めだったのです。斜めだと普通の池と同じで壁が崩れにくいのです。垂直だったら崩れやすいです。（濾過面積効率）斜めだと濾過効率が悪いって言われたのです。施工上、斜めの濾過池の方が簡単だったのです。それを効率が悪いと言って、濾過池の壁を垂直に直したのです。私は、その工事を見て驚いてしまいました。上田市に「なんで効率の悪い濾過池に変えるのだ」と言ったら。「いや、古いからです」、「冗談じゃない。効率の悪いようなシステムにするのはけしからん」と言いました。実は、その時の水道管理者が繊維学部卒業生だったのです。私の学科の卒業生だったのです。その人に頼んで、「なんとでいいから、屁理屈でもいいからストップしろ」と言って、工事をストップしてもらい、残ったのが染屋浄水場にある3号濾過池です。斜めの濾過池です。これが残されたのです。その他の濾過池は皆、設計が悪いのに変わってしまいました。だから、（垂直の）濾過池の壁は、ひび割れして水漏れするような構造に変わったのです。それは浅はかな工学知識だったのです。

### 業者委託で金のかかる仕組みになる

そういう（業者の）金儲けの方にばかり流れてしまう。それはどうしてかということ、委託なのです。業者に相談するのです。業者は金儲けの業者にお金が出るようなシステムしか勧めません。上田市は電気使わない、薬を使わない。手動で全部やるっている。それでは業者が儲からない。

私の卒業生に水道関係に就職した人がいます。緩速濾過は設計図面が簡単だから設計料も取れません。だから絶対に業者は勧めません。そういうシステムが上田市の浄水場なのです。

### NHKが取材して番組ができたが……

実は私が一生懸命叫んで、NHKが染屋浄水場のビデオまで撮ったことがあるのです。だけど放送できなかったのです。何故でしょうか。NHKが公共放送する時は、当時は厚生労働省の水道課（国立公衆衛生院水道課）に相談するのです。そしたら、「国が勧めてきたのは急速濾過である。それを否定するような放送は、国民を不安にさせる。これはNHKとしてやってはいけないことじ

ゃないの」と言って圧力かけました。それで放送は、ボツになりました。私の仲間がそういうといたから、そういう情報入ってきたのです。

### 業者の言いなり

そういうような、今言ったように、上田市は何でもかんでも、ほとんど全部業者に頼むのです。業者に頼んで、コンサルに頼んで、いろんなことの資料を作ってもら。コンサルの裏には業者がついているのです。業者の言いなりです。補助金というのは紐付きです。紐がつかないようなものには、お金くれないのですね。今のシステムは。だから、お金がかかる悪い設計なのです。

昔は水道で職員を採用していたのです(独立採算、別会計で、水道、独自で人員を採用していた)。今は上田市で採用します。ということは専門家が育たないのです(他の部局から配置転換してくる)。

### 小山田さんの活躍

それを今の私たちの仲間で、一生懸命叫んでいる小山田さんは、丸子町の助役やっていた人です。その人は(合併後の上田市の)水道管理者やっていた人です。その人は4年間水道管理者やっていた、それで、(水道の事を)よく理解していたのですね。母袋市長になった時、「お前は交代しろ」と言われた。それ他に、いろいろあって、「もう嫌」と言って辞めた。私は「あの人は、(水道の事について)ちゃんとわかっていて」、水道広域化に反対して、「県水を止めると、一生懸命」言って、(当時、県や上田市が)止める方針を指導した人なのです。その人が、もう嫌になっていた、黙っていたのですけど、あまりにも上田市はひどすぎるという事なので、立ち上がってくれた人です。私は、最初から、「小山田さんに頼んで、なんとかやろう」と思っていたのですけど。

### 県水は絶えず工事している——欠陥処理の施設

実はですね、この中村の人は、よくわかっているのですけど、県水(長野県諏訪形浄水場・県企業局の水道施設)のところへ行くと、常に工事しています。工事しているということは、どういうことかということ、未完成の欠陥処理だから、直さなくちゃいけないのです。(実は、浄水場には、濾過した水を貯める配水池が無かったのです。そこで、国から指導され、配水池を作りました。染屋には配水池は4つもあります。また、停電対策の自家発電設備もありませんでした。)

県水の設備は次から次へ新しい設備へと変わっています。素人が転勤してきますね。だから今は100%ぐらい、業者委託です。県水は業者の言いなりの施設です。

### 染屋の浄水場は儲からない施設

市水の染屋の浄水場どうですか。100年、使っているのですね。(業者が)儲からない施設です。国は「老朽化」という名目で(施設を)更新しようとしているのです。「欠陥処理だから更新します」とは言えない、言わないのですね。「老朽化したから」と言っていますね。あれ嘘ですね。自然の浄化、湧水を作る方法、自然の水脈は、何百年も同じですね。老朽化しないのです。

「地下水脈が老朽化しますか」、「目詰まりしますか」。しないですね。そのぐらい上田市の染

屋浄水場、いい水を作っているのです。作った水を溜めていくところ（配水池）。そこも「時々掃除しなさい」ということになっているのです。「上田市の配水池は、何年経っても（底に）ゴミが溜まらないのです」。「県水（急速濾過処理）の方は（配水池の）底に溜まるから掃除しなさい」という事でした。そのぐらい水質が違うのです。だけど（濾過水の）基準は県水（急速濾過処理）に合わせているのです。（染屋の濾過水濁度は常に 0.000 度、水道水基準は 2 度です。クリプト原虫が急速濾過処理を通過し、集団下痢事故があり、急に、0.1 度以下にと指導された。）

## 水道管の二重化は、実は水道管の移設

私が、上田市に来た時、なんて言われたかという、「県水の悪口は絶対に言わないでください。それは困る」と。でも私は、研究をしたかったから、県水の悪口は言わないようにしていたのですが、でも、もう、定年退職後 20 年ぐらい経ちますから、もういいだろうと言って、言い出しているのです。

上田市の水道は簡単なシステムです。だったら、お金払って退職後の職員にサポートしてもらえば良いのです。企業局は退職後の職員でも、次から次へと職員が変わるから対応できない。サポートできないのです。

だから上田市の方式だったら、自分らで何も問題なくできるのです。上田市は実はお金かからない、お金が余ってしょうがない。「県水の人たちは水道料金高いですね」。だから上田市は同じ水道料金にするために補填しているのです。「県水の水道料金は高く、水質悪い」。それが、わかっちゃうと困って」言っているのですよ。つまり「県に付度している」のですね。また今回の水道広域化も「県（企業局）の借金を、上田市を巻き込んでなんとかしましょう」という計画です。それをはっきり言わないのです。私たちは水の会で調べてみたら、長野市で公開している資料と上田市で公開している資料が違うのです。上田市はごまかしているのです。冗談じゃないよって。

それで上田市が、一番、最後に出してきた資料がこれです。これが去年（2025 年）の 12 月の資料ですね。広域化の図が書いてある。見ると赤い太い管路。「水道管を二重化にする」という事業。経費が莫大なのです。「この二重化というのは、おかしい」。小山田さんが「これ二重化じゃない、水道本管にするのではないか」と思って言っていたのです。よくよく調べてみたら、長野県企業局のホームページの中に「明治時代に作った岩鼻のトンネルの中に水道本管がある。岩鼻のところに新たにトンネルを作った時、道路の発破工事で、明治のトンネルが崩れるのではないかとヒヤヒヤだった」。この写真は、点検作業中です（県企業局の諏訪形浄水場は廃止の予定だったので、新しい岩鼻のトンネルに県の送水管を入れなかったのではないかと思う）。これでは水道管の更新はできないのです。何故かというスペースがないです。こんな大きな管でスペースないから、もう移設せざるを得ないのです。水道は止めて新しいものを作らないといけない。流れているのは止めることできないのです。だから必ず別に作らなくては行けないのです。だから「安全のための二重化と説明しているのですが、実はこれは移設なのです」。移設だったら、県企業局の仕事じゃないか。この水道広域化のお金の大部分は、この水道管の工事代なのです。しかも長野市に入っている水道管が繋がってなかった部分までやるのですね。上田市の施設は、実は能力がものすごくあるの

です。（上田市には、水が無かったが、施設だけは、大きな浄化能力がある施設になっている。）

### 水のない地域から水がある地域に水を送るのか

「上田市は水が豊かだと言っているのですが、豊かじゃないですね」。ここは、日本一乾燥していて水が無い地域なのです。要するに水が無いから菅平とかいろんなどころから水源確保を一生懸命してきたのです。それで水を確保してきたのに「水が豊かだ」なんてことを、議員さんが言っている。「上田市は水が無いところ」と全然分かってない。長野は、長沼、赤沼とかもう洪水ですぐ水没しちゃうような沼なのです。水が豊かなのです。「なんで水少ないところから水の多い長野市に水を送るの」。「これは、長野市は水が豊かだったから水源開発しなかったのです」。長野市は「長野市でやらなかったらいけない」って。「それを言わない」。県に忖度して何も言わない。さっき言ったように「上田市では県企業局のことに対しては絶対、文句言わないでください」という態度です。

### 水道広域化やって、借金が増えたらどうするの。

私は市に、「自分らが確保してきた水を、企業局に売ればいいんじゃない。上田市は大きな儲けになるよ」って言ったのです。市の答は「それはできません」でした。だから「もう何ていうのか忖度ばかりです。そんなことやったら上田市は借金だらけになる」と言った。

今度は企業団として「上田市と一緒にしましょう。効率化になりますよ」と言っている。効率化じゃないのですね。企業団になると、どうなるかということ、「上田市の水利権、浄水場、水道料金も全部企業団に移設するのですよ。上田市は一銭もお金が儲からなくなる。冗談じゃない。そんなバカな」って。県企業局は、「お金がうんと金かかる方法だから、上田市は能力があるから、上田市の水を、安くていい水を長野まで送りましょう」って。だから他の自治体は喜んでいるのです。「早くやってくれ」って。そしたら「水道料金は安くなって、他の自治体にはいい水が来る」。「他の浄水場を廃止しちゃってもいい」って言われている。そういう話なのですね。災害対策にならないですね。

また大きな水道管は、地元の業者でできないのです。ですから東京の大手が来るのです。東京の大手だけが儲かるようなシステムなのですね。「冗談じゃないよ。小さな水道管でできるシステムを作れば、地元で全部できると。それが災害対策だよ」って。

### 土屋市長が広域化を進めてきた

協議会があるのですね。上田市は協議会に入ったのですね。今、協議しています。「協議会の脱退」という規定があって、「脱退するためには協議会に入っている人たちの同意を得て脱退できる」って書いてあるのです。「協議会のメンバーは誰です？ 県企業局、長野市、千曲市、坂城町、上田市です」。これでは「上田市だけ反対しても脱退できないじゃない」。「もうそういう状態になっているのです」。それに気がついて私たちが一生懸命言って、「もう最後のチャンスはこれしかないのです。市長が変わって、脱退します」と言わない限り「脱退できない」のです。

この協議会でこの案ができた時に、土屋市長が率先して厚労省に交渉に行って「早く実行して下さい」と言って行った旗頭です、土屋市長は上田市のデメリットなのに、なんで旗頭になるの。だから私は「土屋市長にも何回も直談判に行ったかわからない」です。「全部スルー」なんです。それでどうしたらいいだろうかって言って、市議会議員の井沢毅さんが一番しっかりしている人ですね。あの人が仲間の打ち合わせ会に来てくれました。去年の12月とかそういう時にこういう署名運動をして。請願をやろうとしていたら、「年度末にやっても継続審議になります。継続審議になったら年度を超えたら廃案になります。だから、署名運動の請願は新しい議会になってから出した方がいいです」って言われたのです。だから今度の5月末までに署名を集めましょうと言って、今、やっているのです。それで「新しい議会に請願を出しましょう」と。そこで「上田市民がこれだけ反対している」ということを示さないといけない。

「もう斎藤さんしか、頼りにならない」ですね。「議員さんは地区の利益だけです」ね。「もう最後の砦ですね。もう市長を組み替える以外ないですよ。また議員がこれだけ出てきたということはやっぱり上田市は、今のままでは、まずいじゃない、という風に、思い出したのではないかなと思っています。時間超えちゃった、ですね。」

#### 【質問・意見】

この勉強会に興味があって、今日初めて聞いて、よく理解しました。二つ質問あっていいですか。この計画通りいくというところに待ったをかけられているってということだと思のですが、先ほど市長が変わって、同意を得るというのが、これを廃止する条件かと思って聞いていたのですが、要は同意が得られない可能性も、まだあるということなのでしょうか。

#### 【回答】

埼玉の下水道事故ありましたね。能登事故がありましたね。あれで国は、「広域化じゃなくてもいいよ」と言い出したのですよ。「小規模分散もありだよ」と言い出したのです。ひっくり返せる可能性もあるのです。

実はですね、水道が厚労省から国交省に移る時の水道移管チームの人が、私たちの仲間の集会に来てくれているのです。浄水場見学に来てくれたのです。神津さんの口添えで来てもらったのです。だから国交省の中に、こういう小規模緩速濾過について興味がある人がいるのです。そういう意味ではチャンスがあるのです。

それと、もう一つ言いますと、面白いのは、実は私、海外ばかりいました。上田の、この運動を始めた頃（2019年）に、上田市の水道局にヴェオリアが入っていたのです。ヴェオリアっていうのはフランスの企業で。世界的にひどく評判が悪い企業が入っていたのです。上田市水道局にヴェオリアの車があって、それから県企業局にも、その車が入っていたのです。で、この水の会ができた時、私は「冗談じゃない。世界で追い出しかけているのに、何で上田に入っているの」って。

それで水の会の働きで上田から追い出したのです。それで、委託料、維持管理費が安くなったのです。水の会で動いて、それで入札契約更新の時に書類の作り方なんかを、「こうしろ、こうしろ」ってガミガミ言って書き直させたのです。本当は、実は長野県内の企業にやらせたかったのです。

入札にちゃんと勝てるぐらいの実力を持っている企業がなかったのです。しょうがないから高崎市に入っていた群馬サービス。「GCCというのが、今やっていますね」。そこに頼んで入れてもらったのです。県企業局にもヴェオリアが入っていたのです。それもひっくり返したのです。それが今、東御市もそうですし、いろんところが今、ヴェオリアからだんだん長野県からどんどん変わってきていますね。そのきっかけは上田市なのです。

#### 【質問】

私もこの話、自分の友達とかに話すと全然知らないし、全然理解していないし、私も困ってしまって、さっきの話も斎藤達也さん言っていたのですが、言い方としてお金かけなくても、今十分、上田にはそういう美味しい水という資源があるのです。そうそう、何もやる必要ないのですという言い方でいいのでしょうか。

#### 【回答】

そうです。それが一番簡単だからね。

実は私は、上田市に来たのはどういうきっかけかという、上田市の水道水がまずなくなってからです。その原因は菅平ダムができたからなのです。その時どうしていたかという、一番、最初、「昔は千曲川からポンプで水を上げていた」のですよ。電気代かかりますね。だからなんとか安くしたいと思って、本当は水を神川から取りたかったのです。だけど神科台の農業組合（水利組合）から反対されて取れなかったのです。しょうがないから千曲川から、泉町と言ってイオンの下の方、あそこのところ、水源地って言っているのですが、その千曲川の伏流水（当初は、千曲川の底に集水管を小牧まで渡していた）を、ポンプで（染屋浄水場まで）持ち上げていたのです。その標高差が 50 メートルあるから電気代がかかるのです。それで、戦後になって神川水から（の用水から分けて）もらうようになったのです。でも、水利権の関係で表向きは千曲川から上げているってことになっているのです。神川からはほんのちょっとしか取っていません、大部分は千曲川から取っていますって、それが表向きだったのです。私は（浄水場で）調査をしていました。千曲川から（水を）上げてないのです。上げているということになっていて上げていなかったのです。

神川から神科のところだんだん水田がなくなったのです。だから契約以上に水を大量に取っても文句言われないうのです。私が調査していた 10 年間、一切、千曲川から上げていなかったのです。だけど、上田市の説明は千曲川から上げていますと言っているのです。それは水利権の関係だったのです。だから染屋浄水場に行くともわかるのですが、小水力発電というのがあります。神川からの水位差を利用した水圧で発電しているのです。もし千曲川から取っていたら、そんなことは絶対ありえないです。「水利権を無視していたのが、国や県にバレた」のです。小山田さんが水道管理者になった時に、もう県から、えらく怒られたのです。

それから、しょうがないから水利権に応じて千曲川から電気代がかけて上げているのです。私たちは、「そんなバカな」と思いました。「水利権を交渉しろ」と一生懸命言いました。

水利権っていうのは、どういうものかという、昔から使っていた水田用の水ですね。あれは江戸時代、昔からの水を使う権利なのです。それは売買できないのです。無料なのです。ただし、水路を作りますね。いろんなものがあります。それらの維持費は使う水の量によって分担しなさいと

いうことになっているのです。

その水利権を無視して使ってきたのです。でも「これ、バレたらまずいよって、早くちゃんとしなさいと、私は言っていた」のです。そしたら市から「何年、遡るかわからないから黙っていてくれ」と言われました。要するに議会への報告、県への報告、国への報告、全部違うのです。

じゃあ水利権を確保するのにどうしたらいいか。菅平ダムを作りましたね。ダムを作る時の出資するわけですね。上田市も出資したのですよ。出資して水道用にも使えますとその維持費を水の使用量に応じて払っているわけです。それで水利権を確保したのです。それで真田町のところへ水利権を確保して水を使いますと言って石舟浄水場を作ったのです。

(大人の事情で)嘘ばかり実はやっているのです。だからそういうのを、本当に正直にやらなくちゃいけないのに、やってないっていうのが現実なのです。

こっちは科学者、技術者だから研究者だから正直なデータがないと困るのです。だから管理日誌を20年間くらいコピーして、そのデータ分析をしていたのです。私は、裏が、全部が分かっている、そういうような状態だったのです。

**【質問】**

県水のここを廃止して、岩鼻トンネル二つ越えて、県水が千曲川から水を取る施設を作らせるっていうことはできないのですか。

**【回答】**

千曲川沿いの大きな工場はみんな井戸を使っているのです。だからそれ使えばいいのですよ。水利権って本流に影響がなかったら水取っていいってことです。

**【質問】**

先ほども言ったように石川県の復興が遅れているって最大の原因は、半島の上の方まで全部広域化で下水道処理をしちゃったために復興が遅れちゃって、それで結局は今回の知事選で、馳知事が負けましたよね。はい。市民があんまりにも能登の復興が遅れているっていうね。その原因はみんな同じような広域化でやっちゃったから、復旧が遅れてね。

**【回答】**

だから今の水道広域化は昔の考え方なのですよ。だから国が変わってきたのに、何やっているのって。

**【質問】**

署名の、取り組みの話、それ成功させたいと思っているのだけど、市議会がね、全然だめのような話だったけど、この広域化に反対の立場は、共産党の3人と、それから他の議員4人と、7人は反対しているわけで、この署名運動っていうのは、新しい議員になった人たちに、この署名の数で、これ大事にしろということで、変えていくっていうかという意味もあるからね。

**【回答】**

そこなのです。つまりね、今の議員さんたちに、訴えてもダメだという判断になっちゃう。今回の信毎のアンケートで、37人の候補者で広域化反対の人が8人いるのですね。広域化賛成の人は2人ぐらいしかない。あとはどちらでもいい。反対の人が流れとして増えつつある。このとどめは齋

藤達也さんを市長にすることによるののかって変わるのですけども、だから結局、議員さんとしてそんな状態だったらダメなのですね。だから斎藤達也さんを応援しない限り無理だという。水の会としての結論っていうか、動きなのです。

#### 【意見】

県議会議員の補欠選挙で、そういう人を立てて頑張ってもらおう。

#### 【回答】

そうそう。だから県議会議員ってまだちょっと実力なさすぎるのですね。だから昔、私は島田さんに近づいたのは、あの時自民党だったのですよ。最初の頃ね。だけど今こうなってきたけど、つまりもう党派関係ない。だから何しろ上田のために、県と県の企業局を動かすには県議会議員を動かさなくちゃいけないと思って島田さんに近づいて島田さんをお願いして田中知事を案内して染屋と諏訪形浄水場を案内し、お願いしたのです。田中知事になんて言われたかという。「長野県は借金だらけなのだよ」って。「一銭も金がかからない方法を教えてくれ」と。

水道というのは水を止められないのですって。絶対に隣に新しく浄水場を作ってから切り替えないといけないのです。その時に莫大な金がかかるのです。その時、知恵が浮かばなかったのです。だけど後で気がついたら、実は、阪神淡路大震災でライフラインを確保しろということで、県水と市水はつながっていたのです。今、上田市の水道管は市水と県水は5か所でつながっています。「そのバルブ開けろ」と言ったのです。「それはできない。これは緊急用であって。」というのです。「水圧の関係で市水は全部届きません」。「だったら県水（諏訪形浄水場）のところに入れれば、ポンプがあるからいけるじゃない」と言ったのです。「いや、それはできません」と言って。

頭にきた。そしたら小山田さんの知恵で、「二ツ木峠、あの上田の工業団地の所で、150mmの管で繋がっているけど、あれをちょっと大きくすれば。自然流下で、ずっと行くよ」と。「だから何ら問題ない」と言われた。それから、「もしもう少し欲しかったら平井寺トンネルがある。あそこも鹿教湯の先に浄水場がある。あそこのダムの下に。あの水も自然流下で来る」と。「だから何の問題なく、動力かからないで塩田平へ水が行く」と言いました。そうしたらね、「県水は困っちゃいます」と言うのです。「県水が成り立たなくなります。だから上田市できなさい」と。「何言ってるの」。上田市のためだ。県のためじゃない。だから、もうガラガラポンとしない限り無理。

上田市には信濃国分寺があったでしょ。県庁所在地ですよ。だから、そのぐらいのプライドがほしいですね。だからその辺のところを、市長にしても市議会議員にしても、そのぐらいのプライドを持って仕事をしてもらいたいと思って。そういう人を、「地元（地区）の利益じゃなくて、やっぱり上田市全体、長野県、日本を変えるのだ」という、「そのぐらいの意気込みを持ってもらわなくちゃいけないですね」、「長野県からヴェオリアを追い出したのは上田市からなのです。この水の会なのです。実はヴェオリアの裏は某自民党の大物です。そんなこと言うとね、刺されるといけないから。とりあえずできるところ、上田市の水をなんとか」と言って。そこから「できることからやっていきましょう」と。